



第2章

市民、事業者の意識

1. 市民環境意識調査結果

●満足度と重要度

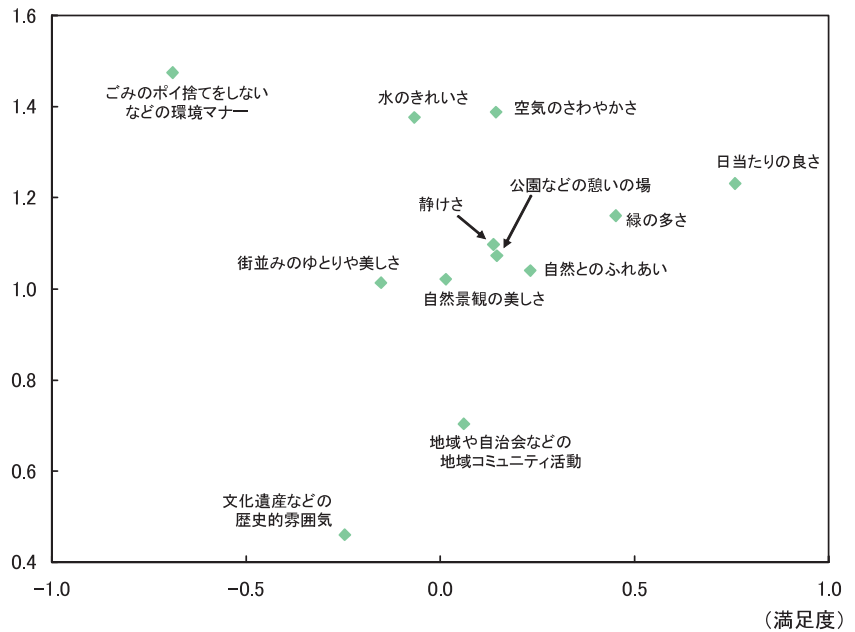
回答者の住んでいる地区の環境に関する満足度と、市全体にとっての重要度をお聞きしました。

満足度が低くかつ重要度が高い項目としては、「ごみのポイ捨てをしないなどの環境マナー」、「水のきれいさ」、「街並みのゆとりや美しさ」などとなっています。

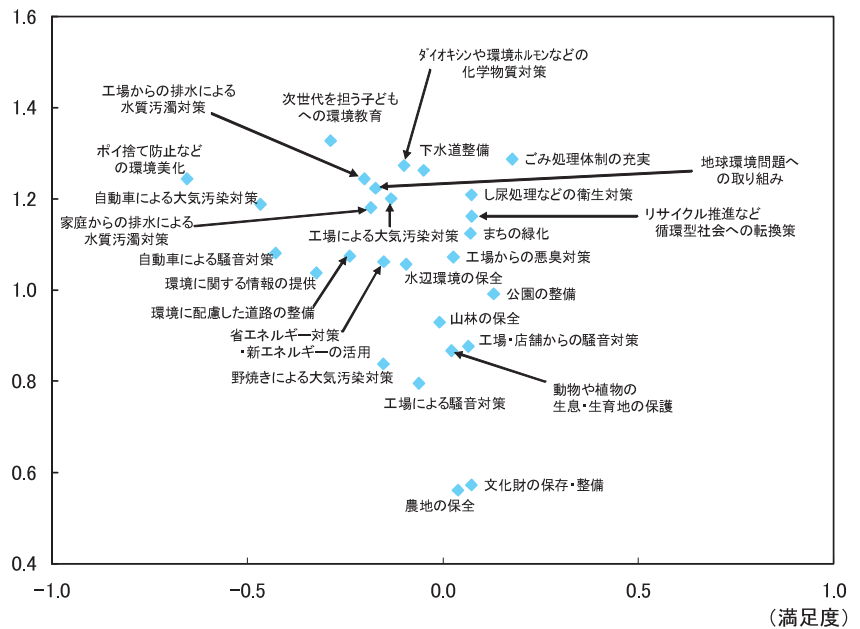
市の取り組みに関することでは、「ポイ捨て防止などの環境美化」、「自動車による大気汚染対策」、「自動車による騒音対策」、「次世代を担う子どもへの環境教育」などであり、今後の対応策の検討が必要です。

注) 満足度については「満足」+2点、「まあ満足」+1点、「どちらともいえない」及び「無回答」0点、「やや不満」-1点、「不満」-2点、重要度については「非常に重要」+2点、「重要」+1点、「どちらともいえない」及び「無回答」0点、「さほど重要ではない」-1点、「重要ではない」-2点としてそれぞれ計算し、点数化しています。

【自然や生活に関すること】



【市の取り組みに関すること】



資料：平成15年度 市民環境意識調査

環境上のポイント

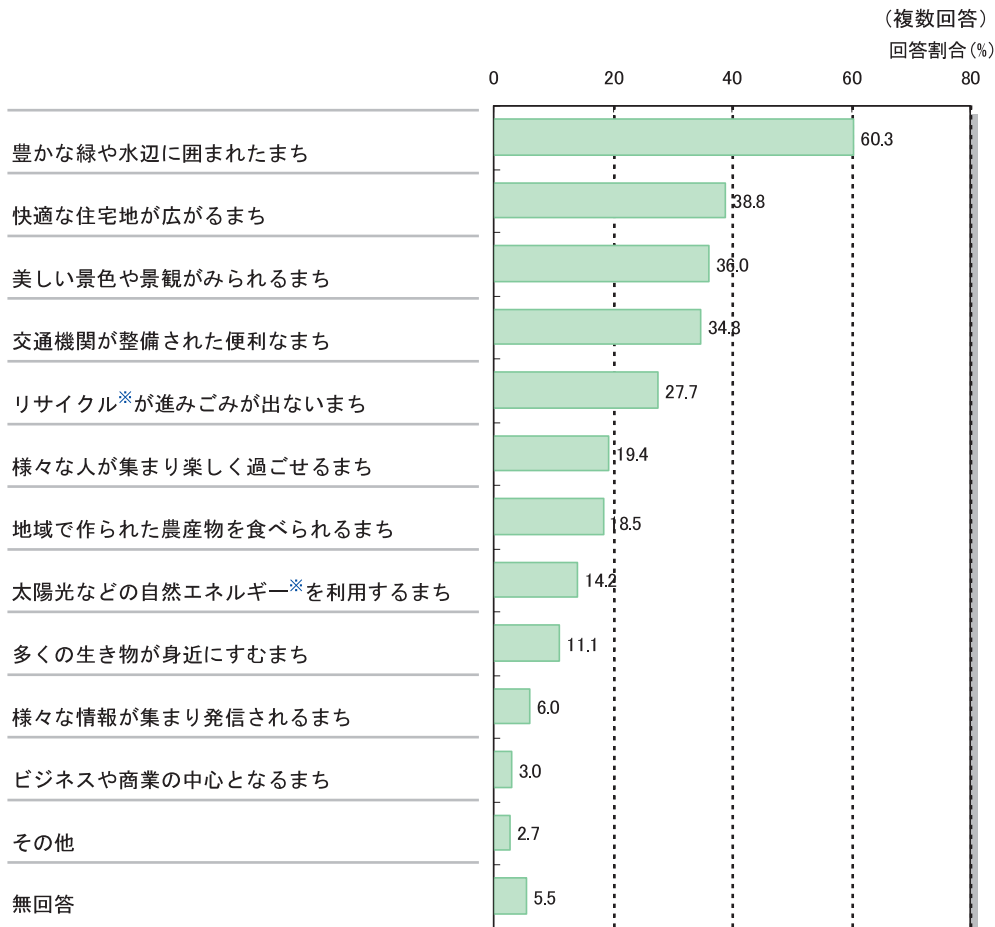
自然環境については、公園、緑などほぼ満足していることがうかがえます。行政の取り組みに関しては、生活環境の保全に関する項目について不満を持つ市民が多く、環境調査結果など環境に関する情報公開を積極的に行っていく必要があります。



●将来の環境を表すキーワード

本市の将来の環境としてイメージすることについてお聞きしました。

最も多い回答が「豊かな緑や水辺に囲まれたまち」、次いで「快適な住宅地が広がるまち」、「美しい景色や景観が見られるまち」、「交通機関が整備された便利なまち」が支持されました。



資料：平成 15 年度 市民環境意識調査

環境上のポイント

住宅需要の高い本市ですが、豊かな緑や水辺を保全することが求められます。住宅都市としての快適さを充実させつつ、残された自然環境を保全、あるいは自然とのふれあいの場を創出していく必要があります。

※リサイクル：廃棄物など捨てればごみとして処理されてしまうものを資源として見直し、再利用すること。

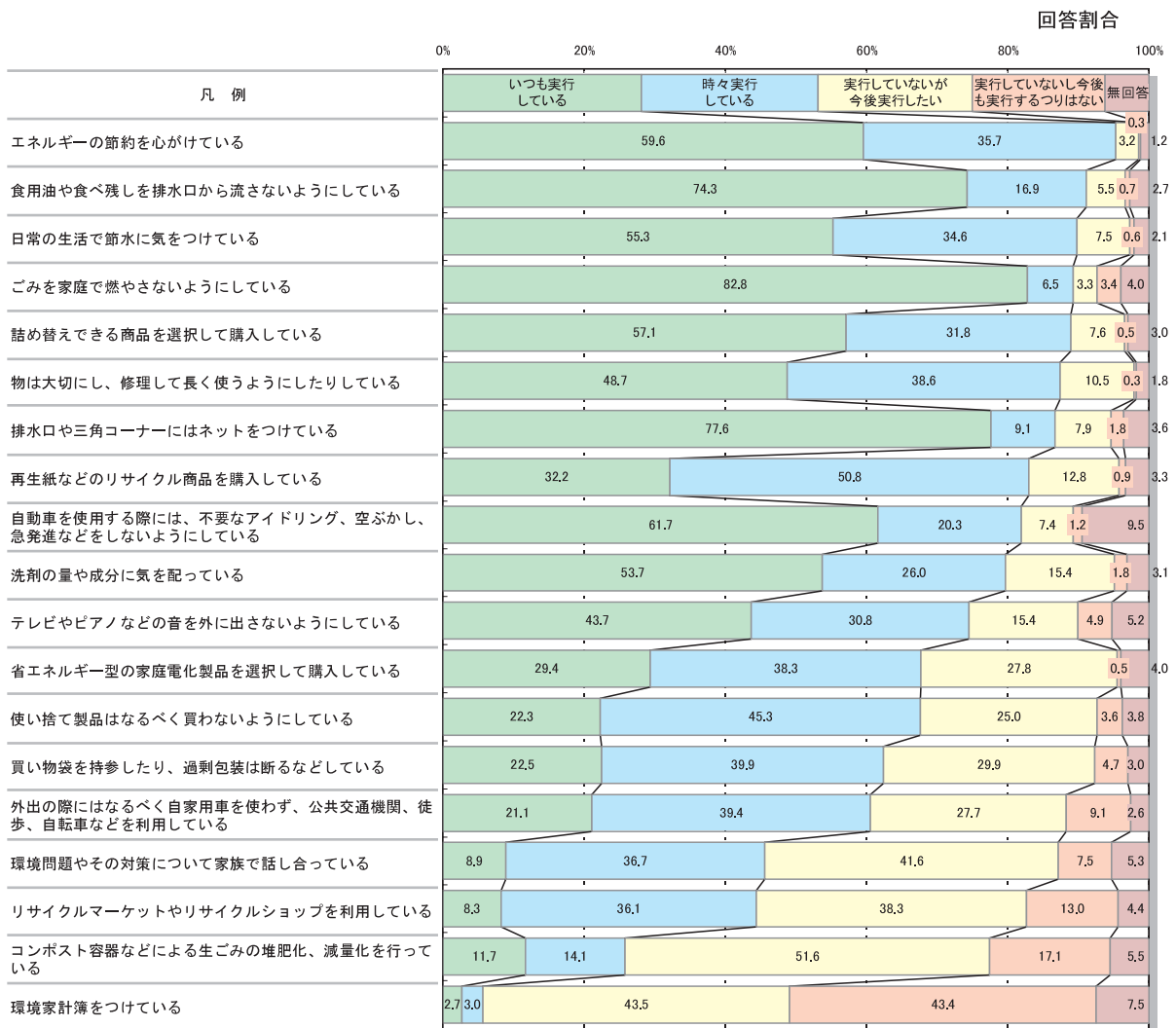
※自然エネルギー：石油、石炭、天然ガスなどの限りあるエネルギーと違い、太陽エネルギー、風力など無尽蔵のエネルギーをさす。



●環境に配慮した行動

環境に配慮した行動の実行状況についてお聞きしました。

ほとんどの項目で、「実行している（いつも＋時々）」の割合が60%以上となっています。実行している割合が低い項目は、「環境家計簿[※]をつけている」、「コンポスト容器[※]などによる生ごみの堆肥化、減量化を行っている」、「リサイクルマーケット[※]やリサイクルショップを利用して」、「環境問題やその対策について家族で話し合っている」があげられます。



資料：平成15年度 市民環境意識調査

環境上のポイント

費用の節約につながる行動や公害防止に関する行動については、実行している割合が高くなっています。しかし、手間暇のかかる行動については、実行している割合が低くなっており、何らかの誘導措置が必要と思われます。

[※]環境家計簿：日々の生活において環境に負荷を与える行動や環境に良い影響を与える行動を記録し、必要に応じて点数化したり、収支決算のように一定期間の集計を行ったりするもの。

[※]コンポスト容器：家庭から排出される生ごみ、落ち葉などを、土中の微生物の働きにより、堆肥にするためのプラスチック製の容器。

[※]リサイクルマーケット：ごみの減量化や資源の有効利用に役立てることを目的に、公園や駐車場等を会場に住民が不要な品物を持ち寄り、安い値段で販売すること。

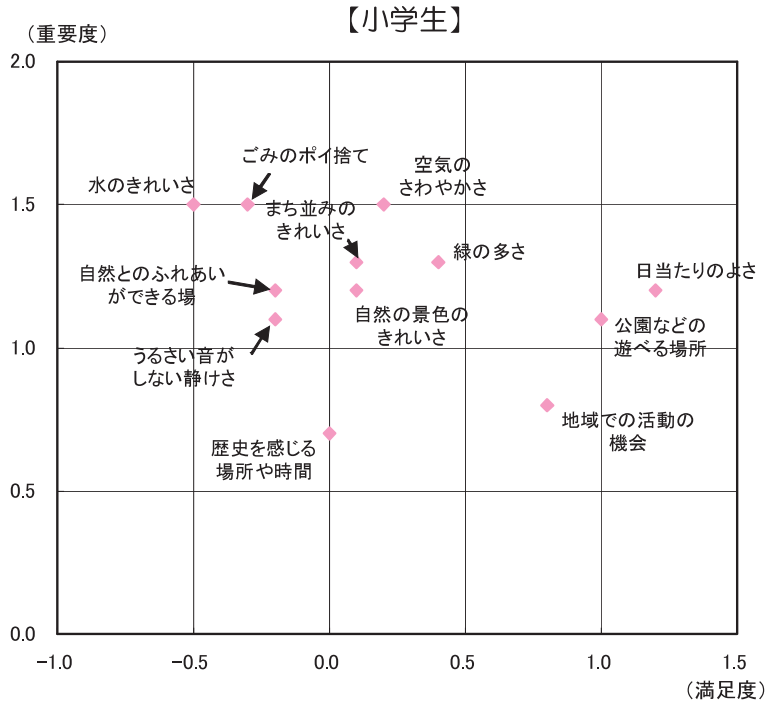


2. 小中学生環境意識調査結果

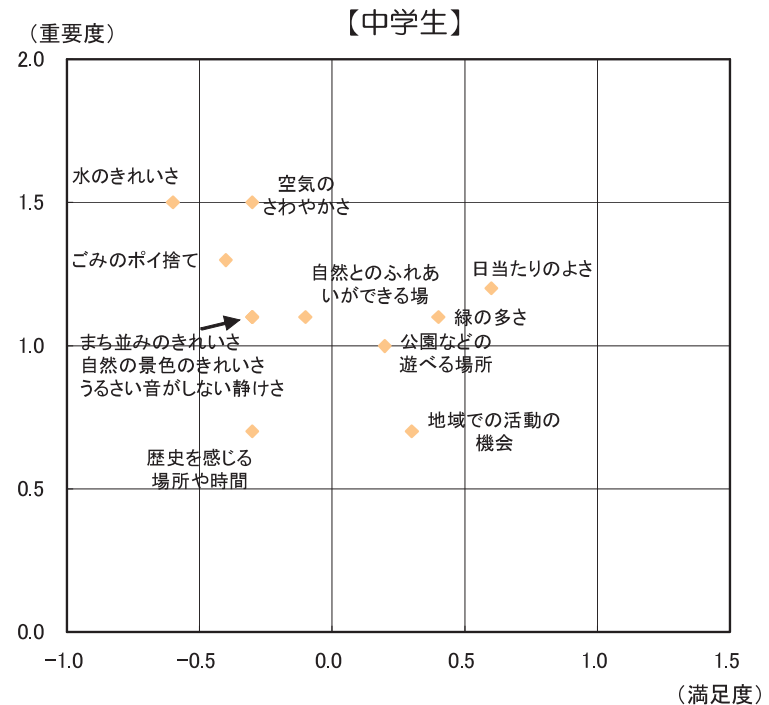
●満足度と重要度

家の周りの環境に関する満足度と、将来の環境についての重要度をお聞きしました。

満足度が低くかつ重要度が高い項目としては、小学生、中学生ともに「水のきれいさ」、「ごみのポイ捨て」、「空気のさわやかさ」などとなっています。



注) 満足度については「満足」+2点、「まあ満足」+1点、「どちらともいえない」及び「無回答」0点、「やや不満」-1点、「不満」-2点、重要度については「非常に重要」+2点、「重要」+1点、「どちらともいえない」及び「無回答」0点、「あまり重要ではない」-1点、「重要ではない」-2点としてそれぞれ計算し、点数化しています。



資料：平成17年度 小中学生環境意識調査

環境上のポイント

市民環境意識調査の結果と比較すると、「水のきれいさ」や「ごみのポイ捨て」などに関しては同様の傾向が見られますが、「自然とのふれあいができる場」については、満足度が低くなっています。

身近な自然とふれあうことは、自然を理解することや地域への愛着にもつながるため、地域と一体となって、そのあり方を考えていく必要があります。

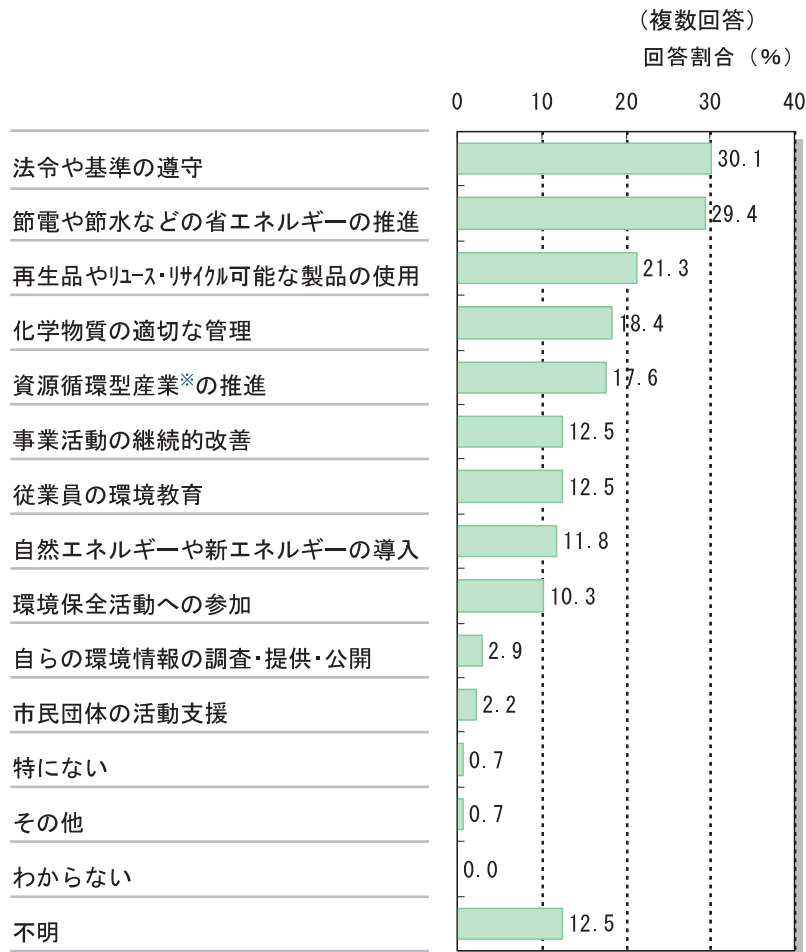


3. 事業者環境意識調査結果

● 事業者に求められる取り組み

環境保全のために、事業者求められる取り組みについてお聞きしました。

「法令や基準の遵守」が30.1%で最も多く、次いで「節電や節水などの省エネルギーの推進」で29.4%、「再生品やリユース※・リサイクル可能な製品の使用」で21.3%となっています。



資料：平成17年度 事業者環境意識調査

● 環境に配慮した行動

環境に配慮した行動の実行状況についてお聞きしました。

「実行している」が多いのは、「こまめな消灯・適切な冷暖房温度などの省エネ」で81.6%、次いで「紙、缶・ビン類、生ごみなどのリサイクル」で72.8%、「使い捨て製品の使用・購入の抑制、再生紙などの使用」で64.7%となっています。

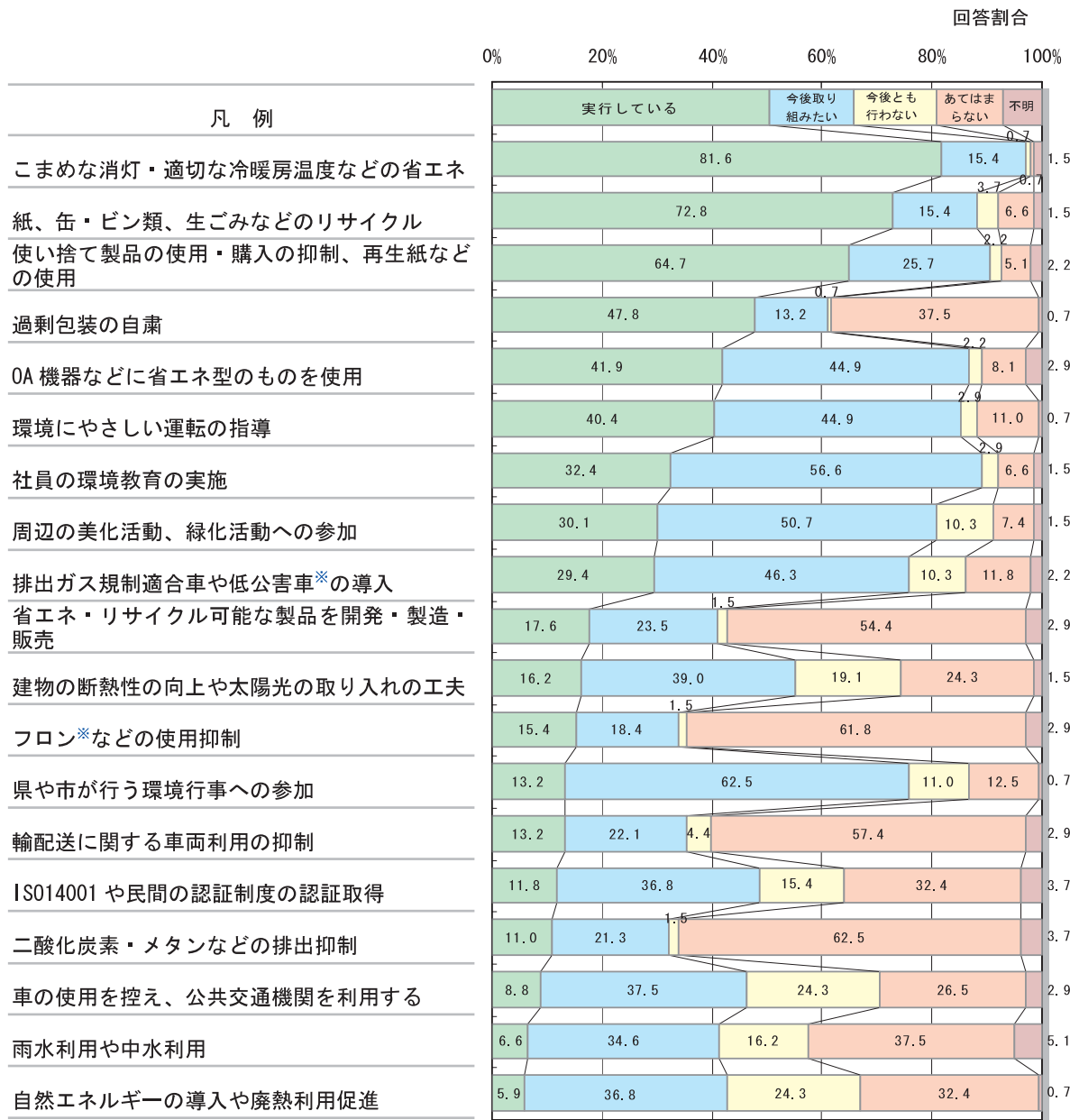
「今後取り組みたい」が多いのは、「県や市が行う環境行事への参加」で62.5%、「社員の環境教育の実施」で56.6%、「周辺の美化活動、緑化活動への参加」で50.7%となっています。

「今後とも行わない」が多いのは、「自然エネルギーの導入や廃熱利用促進」、「車の使用を控

※リユース：使用済み製品を回収し、製品や部品に適切な処置を加えることで製品・部品として再利用を図ること。

※資源循環型産業：廃棄物発生の抑制と適正な資源循環を行うことにより、天然資源の消費を抑制し、環境に与える負荷をできるだけ低減する産業。

え、公共交通機関を利用する」でいずれも 24.3%、「建物の断熱性の向上や太陽光の取り入れの工夫」で 19.1%となっています。



資料：平成 17 年度 事業者環境意識調査

環境上のポイント

法令や基準の遵守のほか、ISO14001 の普及にともない、省エネルギー・省資源やリサイクルなどへの理解が進んでいると考えられます。

今後、経費削減や企業イメージの向上につながる取り組みだけでなく、さらに積極的な取り組みに広がっていくことが期待されます。

※低公害車：従来のガソリン車やディーゼル車に比べて、窒素酸化物、二酸化炭素などの大気汚染物質や地球温暖化物質の排出量や騒音の発生が少ない、または全く排出しない自動車のことをいう。実用化されている主な車種としては、電気自動車、天然ガス自動車、メタノール自動車、ハイブリッド自動車及び低燃費・低排出ガス認定車がある。

※フロン：メタン、エタン等の炭化水素にフッ素及び塩素が結合した化合物の総称。冷蔵庫などの冷媒やスプレアの噴射剤に用いられ、地球の温暖化やオゾン層の破壊の原因といわれている。